

甘味のあるハクサイづくりの決め手

栽培のポイント

●生育前半に外葉を十分に大きく育てる！

初期の外葉が小さいと、球が小さくなってしまいます。
外葉は播種後約1ヵ月で出来上がるので、元肥と発芽後の生育促進をすることが重要です。

●水はけの悪い圃場は高ウネに！

比較的水分を多く欲しがりますが、水はけが悪い圃場は土壌病害の原因になります。土作りを行って排水性と保水性を両立させることが必要です。また、高ウネ（20～30 cm）にすることで、根腐れ防止の対策となります。

●結球のしくみ！

結球は、日照時間、照度、気温に大きく影響を受けるようです。結球の開始は外葉の立ち上がりと関係があり、外葉によって内部の葉に十分な光が届かないことで結球が進みます。そのため、外葉を除去して内部に光が当たるようにすると結球が遅れることになります。



ハクサイの施肥提案（1 a = 30 坪）

資材名	元肥	追肥① (定植 10～15 日後)	追肥② (定植 30～40 日後)	葉面散布
苦土入りMリンPK	3 kg	2 kg	2 kg	降霜前後に リーフSG 1000 倍液散布
バクヤーゼK	30 kg	—	—	
NK化成	6 kg	3 kg	3 kg	

「ウネ肩」に施肥
時期を逃さないように！

「ウネ間」に施肥
冬穫りの場合 11 月にも追肥する

ゴマ症、ホウ素欠乏、芯腐れ

原因:カルシウム欠乏 & 水分の過不足 & チッ素の過剰吸収

対策:MリンPKの元肥利用、土壌の保水性と排水性の両立、干ばつ時の葉面散布

軟腐病

原因:土壌中の細菌＋多湿条件

対策:有効菌を利用した土作り



ハクサイの根は毛細根も多い